三重県立熊野古道センターからのてがみ

"The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center"

2008, VOL.9

熊野をまるごと味わう！
-熊野古道センターの料理教室-

世界遺産・熊野古道伊勢路周辺は、豊かな自然に恵まれています。そんな自然の恵みを体験していただこうと、熊野古道センターでは、東紀州に多く自生するシダの拓本づくりや、尾鷲ヒノキの箸づくりなどいろいろな体験教室を開催しています。

そのなかで、今回は皆さん大好きな「食」をテーマに、東紀州の海と山で育まれた特産品を使った「東紀州の四季を味わう料理教室」を紹介します。

講師は高校生レストランとして一躍有名になった「まごの店」でもおなじみ、三重県立相可高等学校食物調理科の村林新吾先生と生徒さん。村林先生の楽しいトークと生徒さんの優しく丁寧な指導が大変好評の料理教室です。旬の食材を各家庭の食卓に取り入れやすく、「魔法」のように美味しく変えてしまう村林先生の料理に、参加者の方も驚きの連続です。出来上がった料理を食べた参加者からは、自然と笑顔がこぼれます。

↑熱心に指導する村林新吾先生

↑シダの拓本づくり

↑ひのきアート教室

この地域には、御浜町の美しい山々の湧水で育った紀州岩清水豚や、熊野灘の潮風を浴びて育った甘くておいしいみかん、タンパク質が多く、脂質が少ないのが特徴の熊野市紀和町の雉肉、尾鷲漁港に揚がった新鮮な旬の魚などの食材が豊かです。

これからも、様々な料理・体験教室を通して、新たな東紀州を発見し、もっと楽しく東紀州を体験していただければと考えています。

Pick up

熊野古道講座 「熊野の城跡と巨岩巡り」

10月５日(日)、世界遺産・鬼ヶ城と、熊野市にある要害山の城跡を散策しました。眺めがとても良く、鬼ヶ城跡では熊野灘が、要害山城跡では熊野市の街並みが一望できます。普段何気なく歩く時と違い、土地にまつわる歴史を聞き、目で見ることによって新しい発見もあり、楽しみながら学ぶ事ができました。

「熊野古道まつり」と「おわせ海・山ツーデーウォーク」

↑おわせ海・山ツーデーウォーク スタート！

10月25日(土)・26日(日)には『熊野古道まつり』(第６回熊野古道まつり実行委員会/主催)が熊野古道センターをメイン会場として開催されました。7,000人もの人々が集まり、素敵な踊りを楽しみました。

また、11月15日(土)・16日(日)には、『おわせ海・山ツーデーウォーク』(尾鷲市・㈳日本ウオーキング協会・三重県ウオーキング協会/主催)が開催され、全国から1,132人の人が集まり、古道歩きを楽しんでいました。

まめ熊野塾 Guide & Tips

「クジラ文化を伝える祭り」

尾鷲市の梶賀浦では、毎年１月に古式捕鯨の様子を伝える「ハラソ祭り」が行われます。

多くの大漁旗で彩られた船が梶賀から曽根の飛鳥神社下へ海上を渡り、船の先で羽指(はざし)と呼ばれる人が、クジラに銛を打ち込む所作を繰り返す、とても華麗な祭りです。

熊野灘の沿岸には他にも、紀北町白浦の大白祭(大白(おおじろ))(７月)、尾鷲市古江のギッチョホイ(１月)、和歌山県太地町のクジラ踊り(８月)など、捕鯨にまつわる祭礼や芸能が多く残されています。是非これらを訪れて、海と共に生き、その恵みに感謝してきた、熊野の浦人たちの文化を感じてみてください。

「ブリの大漁を占う祭り」

鰤祭りが開催される尾鷲市九鬼町のブリ大敷網はいまも全国有数の規模を誇っています。

この地は戦国時代に、織田・豊臣の水軍大将になった九鬼嘉隆で有名な九鬼一族の出身地でもあります。

そんな九鬼町で大晦日から１月３日まで行われる「鰤祭り」は、鰤の大漁を願(おおたき)って始められた祭りです。一年の無病息災を願う大焚火(びび)「ヒョウケンギョウ」や泥を掛け合う「ニラクラ相撲」、最終日には地元の少年が弓を引き、的に何本の矢が当たるかでその年の大漁を占う神事などがあります。

日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式

尾鷲ヒノキ舞台プロジェクト [But-a-I]

◇主催：ものづくり実行委員会
◇共催：三重県立熊野古道センター、社団法人三重県緑化推進協会
◇協力：NPO法人紀州熊野応援団、㈱塩谷組、㈱ムラヤマ、㈱前川組
(この事業は、財団法人三重県産業支援センター・平成20年度みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金ならびに、東京藝術大学学外拠点形成検討プロジェクト予算を得て実施されます。)

この度、現代アートの代表的作家である、日比野克彦氏プロデュースによる尾鷲ヒノキ舞台プロジェクト[But-a-I]が、尾鷲ヒノキの生産地である地元、熊野古道センターに設置されることとなりました。熊野古道センターでは、この尾鷲ヒノキ舞台で音楽演奏や演劇、その他パフォーマンスなどをしたいという方を募集します。舞台の使用は無料です。

利用可能期間は平成20年11月28日(金)～平成21年５月10日(日)(予定)

※利用に関しての条件等がございますので、詳細は熊野古道センターまでお問い合わせください。

イベント情報

Event Info. 企画展「熊野杉葉線香ものがたり～蘇れ！ふるさと産業～」

11/1～sat.

開催期間/平成20年11月1日(土)～平成21年1月12日(月)　※12月31日・1月1日は休館
時　　間/9：00～17：00(入館は16：30まで)　**場所**/企画展示室
入場料金/無　料

かつて、熊野・尾鷲地域の重要な産業だった杉葉線香の歴史を、杉葉粉・線香づくりのための道具や、線香など実物資料とともに、絵や写真でわかりやすく紹介しています。自然の恵みと先人の知恵を知ることで、消えゆく伝統産業の新たな可能性を一緒に探りませんか？

新しい古道の歩き方

「杉葉の道と、線香車を訪ねる」

平成21年1月11日(日)

むかし、女性達が杉葉を背負って通った道“八丁坂”を歩き、昭和43年まで杉葉粉をつくっていた県内最後の線香水車小屋を訪ねます。

◇時　間：9：15～14：30
◇参加料：1,500円（昼食代・保険料を含む）
◇場　所：熊野市飛鳥町・新鹿町
◇講　師：鈴木祥嗣氏（林業家）
◇定　員：10名

「杉葉線香づくり体験教室」

期間中の毎週 土曜日・日曜日

熊野の杉葉で、杉葉線香を手づくりしましょう。名づけて『熊野香』!!熊野の森の香りをお持ち帰りください。

◇時　間：13：30～15：30（受付は15：15まで）
◇参加料：100円
◇場　所：企画展示室
※申し込み不要ですが先着順となります。

↑江戸時代の線香づくりの様子

1/24～sat.

企画展「熊野灘のクジラ絵図」

開催期間/平成21年1月24日(土)～4月5日(日)　会期中無休
場　　所/企画展示室

“クジラ一頭捕れば七浦にぎわう”熊野灘沿岸の浦々は、むかしから捕鯨によって繁栄してきました。現在でも古式捕鯨の名残を残す祭礼が各地にあり、人々の生活と密接に結びついていたことがわかります。今回の企画展では、和歌山県の太地町立くじらの博物館にご協力いただき、熊野灘での捕鯨の様子やクジラを描いた絵図類を中心に紹介し、その恵みを受けてきた当地域の風土を感じていただきたいと思います。

↑セミクジラの絵図（『紀州熊野浦諸鯨之図』）

体験教室

1月18日(日)「東紀州の四季を味わう料理教室」

東紀州の特産品を使用した料理教室です。今回は、尾鷲市九鬼町でお正月に開催される鰤祭りにちなんで、旬のブリと、大紀町の大内山牛乳を使用したメニューを予定しています。

◇時間：10：00～13：00　◇参加料：2,000円　◇場所：体験学習室
◇定員：24名　◇講　師：相可高校教諭　村林新吾先生

ひのきアート教室　月別

12月14日(日)：お正月飾り　1月25日(日)：マイスプーン　2月22日(日)：お雛様飾り
◇時間：13：00～15：00※時間延長の場合あり　◇参加料：1,500円
◇講師：NPO法人海虹路会員　◇定　員：各10名
毎週日曜には、うちわやお箸などその場で作れるひのきアート教室開催！
※日程が変更となる場合有り。

講座・講演

3月(予定)　講座「南方熊楠と熊野の森(仮)」

植物・生物・民俗・宇宙…世の中のあらゆるものに興味をもち、追究し続けた南方熊楠の生涯と、その功績を学ぶ講演会です。
*詳細は決定次第お知らせいたします。

お正月体験教室

お正月の熊野古道センターでは、いろいろな体験教室を開催しています。申し込み不要で、その場で体験していただけますので、お気軽に参加してみてください。

1月2日(金)～1月4日(日)「杉葉線香づくり体験教室」
1月3日(土)「干支の折り紙教室」
1月4日(日)「ひのきアート教室」
◇時間：13：00～15：00　◇料金：100円～

新しい古道の歩き方

2月8日(日)「古道の景観を探す旅～風伝峠への道～」

横垣峠道と風伝峠道をつなぐ里の棚田や古道を歩きながら、その景色を守っている地元の人と触れ合う里山巡りです。
*詳細は決定次第お知らせいたします。

3月1日(日)「ヤブツバキ咲く三木崎めぐり(仮)」

ヤブツバキが群生する三木崎園地にて、三木崎灯台や柱状節理の岩壁が見事な海金剛を巡ります。*詳細は決定次第お知らせいたします。

お母さんのランチバイキング
スカイフード
ランチバイキング
営業時間
am11：00～pm2：00
大　人（中学生以上）1,200円
高齢者（60歳以上）1,000円
子　供（小学生から）700円
乳幼児　無　料

夢古道おわせ
触れて
感じて
味わう
おわせ尽くし
http://yumekodo.com/
熊野古道センターの斜め上

営業時間
ご入浴　午前10：00～午後9：00

紀伊半島でここだけ！
海洋深層水温浴施設
夢古道の湯
入浴料
大　人　600円（中学生以上）
高齢者　500円（65歳以上）
子　供　300円（4歳以上小学生）
4歳未満　無　料

《 お申込みはお電話か、直接センターにどうぞ!! TEL:0597-25-2666 》

熊野古道センター
-20.12.10
KODO CENTER

熊野古道からのてがみ

熊野古道からのてがみ

9 通目

早いもので、私が熊野古道を歩くようになり六年が過ぎました。

どこへ行くにも車を使い、歩きたくない私でしたが、身体を壊し、体力をつけようと熊野古道を歩き始めた日を、懐かしく思い出しています。当時の熊野古道は、現在のように道標や地図が充実しておらず、道をよく尋ねられました。馬越峠で次々と呼び止められたのをきっかけに熊野古道語り部になり、歩き続けるうち、すっかり元気になりました。

熊野信仰は大自然から生まれました。おおらかで開放的な熊野の神様は、女性を受け入れ、来世だけではなく現世に幸福をもたらすと云われています。私にはご利益がありすぎるくらいありました。熊野と旅人から元気を頂いた分、みなさんにお返ししたいと思っています。

昔も今も、熊野に惹かれる人々には同じ思いが根底にあるように思います。あなたが熊野古道を歩いてみたいと思ったきっかけは？

ストレス社会と言われる昨今です。生命力に満ちあふれた熊野の自然に、身を置く時間を大切にしてください。

悠久の歴史の中で、自分自身を見つめる時間を大切にしてください。

↑元盛松ゴロタ石の前浜(尾鷲市)

都会の喧騒を忘れ、日々の悩みが薄れてゆく開放感。

熊野古道を自分の足でしっかりと歩き通す。そこから得られる達成感。

道端のお地蔵さんに手を合わせる穏やかな気持ちを大切に。

そして、地元の人々とふれあう時間を大切に。

熊野古道で非日常を体験してください。

あなたにお逢いできる日を楽しみにしています。

内山裕紀子(うちやまゆきこ)さん(尾鷲市)
くまの体験企画　代表
熊野古道語り部友の会　会員
海山郷土史研究会　会員

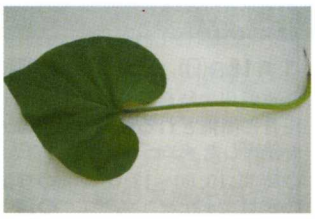
筆リレー　次は熊野市の下浜興一郎さん

花尻薫からの季節のたよりNo.9「食べ物がない飢餓の時代」

江戸時代には日照りや長雨、冷害で米が不作になった時代がありました。特に天明２年(1782年)から天明７年まで続いた飢餓は大飢餓で、全国で餓死者が50万人とも100万人とも言われました。日本国内の人口が約3,000万人強の時代に、これだけの人たちが食べ物がなくて飢え、痩せてひもじい思いをしながら大切な命を落としたといいますから、美食の時代に生きている現代の人々には想像もつかない悲惨なことです。熊野市の紀和町の西家に伝わる書物によれば、天明の頃、近くの三ノ村(三津ノ村)では、一軒あたり４人が飢えていると記録されています。

熊野地方のことを記録した『熊野年代記』という書物の、享保18年(1733年)の記録には、「熊野大飢餓竹草ノ根を喰」とあります。第二次世界大戦で敗れた日本が食糧難であった昭和20年代、現在の60才位以上の人々は、サツマイモの蔓や葉を食べ、トウモロコシの茎をかみ、甘い汁を吸収しました。イモ類をご飯に入れたり、麦ごはんはどこにお米が入っているのか分からないような、まずく味気ないご飯を食べて生活しました。

食べ物を大切にしなければならない時代が来ました。貧しい島々の人たちや、食糧の乏しい国の苦しみを思い、日本の国民は今の生活に感謝しなければなりません。



↑サツマイモの茎と葉

○ おしらせ ○

三重県立熊野古道センター
第49回 BCS賞(建築業協会賞) 受賞!!

BCS賞とは、社団法人建築業協会から国内の優れた建築作品に贈られる賞です。
デザインや機能が優れていることはもちろん周辺環境や街並みへの配慮、地域との融合、新しいチャレンジなどの点で選抜されました。
表彰式は、本年11月19日(水)、東京・皇居前のパレスホテルで行われました。

●お車：国道42号線で尾鷲市内→矢の浜南交差点を海側へ曲がる→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)
●電車：JR尾鷲駅下車→(徒歩５分)三重交通「尾鷲駅口」バス停→「紀伊松本行き」乗車→「熊野古道センター前」下車(バス乗車時間約10分)
●松阪駅→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約２時間)

☆熊野古道センターニュースレター☆
“熊野古道センターからのてがみ Vol.9”
●発行日：2008年12月10日(季刊)
●編集・発行：三重県立熊野古道センター
(三重県指定管理者　NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
●編集担当：森下
●連絡先：〒519-3625
三重県尾鷲市大字向井字村島12番4
TEL 0597-25-2666　FAX 0597-25-2667
Mail info@kumanokodocenter.com
H P http://www.kumanokodocenter.com/
●開館時間　午前9時～午後5時
●入場料　無料
●休館日　12月31日、1月1日
(その他メンテナンス時休館)　60000081210EM